

# 会報

第37号

発行所  
 広島大学工学同窓会東広島支部  
 事務局 東広島市西条町御園字 6400-3  
 豊国工業株式会社  
 TEL : 082-493-7019

令和5年3月発行

## 1. 東広島支部活動状況

事務局

コロナ禍の影響により、支部活動が滞っており、本会報は2年ぶりの発行となります。令和2年12月に発行した前回会報第36号では、コロナ禍が始まり支部総会が書類審議となったこととお伝えいたしました。その後、会報発行によるご報告ができておりませんが、令和3年および令和4年の総会も書類審議となりました。また、各種イベントを中止する等、この間の活動はほぼ自粛状態となりました。

来年度は、コロナ禍への対応の緩和が予定されており、実質的な支部活動の再開が期待されます。事務局としてもこの状況変化に対応していきたいと考えておりますので、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

広島大学工学同窓会		東広島支部	令和4年度	役員名簿	
支部長	河野安隆	東広島支部	理事	瀬尾正好	シャープ(株)
副支部長	李木経孝	広島国際学院大学	理事	島 治正	白牡丹酒造(株)
事務理事	下見広司	豊国工業(株)	理事	吉田 敬	日本クワイメイトシステムズ(株)
事務理事	河吉利幸	豊国工業(株)	監事	庄林 学	賀茂鶴酒造(株)
理事	近宗克紀	(株)サタケ	理事	新田茂樹	(株)広島テクノプラザ
理事	大田和彦	近大工学部	理事	福原新一郎	東広島商工会議所
理事	和田和人	マイクロメモリジャパン	理事	最上泰輔	西松建設(株)
理事	来徳康徳	東広島市教育文化振興事業団	理事	今川光洋	東広島支部
理事	台信達観	東広島市役所	理事	森 匡輝	森弁理士事務所
理事	加藤 学	シャープ(株)	監事	田邊詳統	富士機械工業(株)

令和3年度および令和4年度は、令和2年度に続き、計画されたイベントが中止され実質活動ができなかったことにより、会費徴収も行わないことが決定されています。

## 2. 会員様からのトピック紹介

### 船舶工学科1972年(昭和47年)入学者同窓会(その2)

新田茂樹(船舶 51)

2022年11月19日~20日の2日間、広島県呉市で1972年(昭和47年)船舶工学科に入学した同級生13名で同窓会をしました。この同窓会は2年毎に開催することになっていますが、2020年に開催予定だったところ、Covid-19の影響で1年延期して2021年11月に開催しています。そのため今回は2年連続の開催に至ったのです。

2022年11月19日13時に広島県のJR呉駅に集合しました。本来なら14名の参加予定でしたが、1名が東京から広島に向かう新幹線の車中で職場でCovid-19感染者が出たため濃厚接触者になったことが判明し、やむを得ず引き返したのです。この時代のエピソードとして記憶に残りそうです。

JR呉駅から遊歩道を歩いて呉港に移動し、呉湾艦船巡りクルーズを楽しみました。ガイドの方が海上自衛隊の護衛艦や潜水艦、ジャパン マリンユナイテッド(旧IHI)で建造されたコンテナ船などを分かりやすく説明されました。船舶工学を学び大部分の者は造船に携わり、中には潜水艦の設計をした者もあり、呉湾に停泊する船を飽きることなく見続けたのでした。



呉湾艦船巡りクルーズ

JR呉駅からJR安浦駅に移動、さらにマイクロバスで宴会場・宿泊所のグリーピアセとうちに到着し、和室4部屋に分かれてチェックインしました。入浴後の会食では、「病気と孫の話はしない」とのルールに従って、各自の近況報告をしました。



グリーピアセとうち宴会場(前列左から鷹尾伏氏、浜崎氏、布田氏、佐伯氏、新田、鈴木氏、横田氏(着席)、小河原氏、榎木氏、兼本氏、石田氏、常本氏、)

前回よりも仕事をリタイアした人が増え、家庭菜園、登山やゴルフなど趣味を楽しんでいる様子を楽しく伺いました。また、同窓会の開催はウイークディにした方が良いとの要望が増えました。それは観光や宿が空いていて安価なためです。

今回、幹事を務めて頂いた横田さんは、1976年大学卒業以来2022年3月まで造船所に勤務し、長年にわたり造船業界に貢献されました。横田さんは持ち前のユーモアでみんなの爆笑を誘うなど会を盛り上げられました。また、共同幹事として榎木氏が会計を務められました。榎木氏は、何事にも動じない確かな性格からいつも会計に請われます。

会食の後、宿泊室に集まって2次会をしました。卒業研究や就職時のエピソード、学生時代に起きた

事の真相、投資の失敗談などで盛り上がりました。2次会も以前なら午前2時頃まで話をしていましたが、寄る年波には勝てず12時前にはお開きとしました。

翌11月20日は、再び呉に帰り呉市海事歴史科学館「大和ミュージアムと海上自衛隊呉史料館「てつにくじら館(潜水艦)」を見学しました。戦艦大和の10分の1モデルの美しい船体を見て、学生時代の製図実習で船体形状を設計するためのLines(ラインズ)を描いたことを思い出しました。てつにくじら館(潜水艦)では、防衛機密上未だに公開されていない部分があり国際情勢の厳しさを感じました。

昼食は呉駅近くで広島風お好み焼きを堪能しました。この時に、ジャパン マリンユナイテッドで建造中の洋上風力建設船の試運転を終えた島村氏が飛び入り参加され、旧交を温めた。今回は2024年に徳島県での開催を決定した後、JR呉駅で解散しました。

最後に本同窓会の開催にあたり、広島大学工学部同窓会の会員交流事業の援助金の交付を受けたことを報告します。



会計担当の榎木氏



大和ミュージアムにて幹事の横田氏

## へたよこシリーズ9 「終活に向けて墓じまい!」

河野安隆 (51 精密工 4781113)

わたし、後期高齢者の射程距離内なので、終活を真剣に考えて整理し始めたんです。将来の息子夫婦の負担を軽くしてやらんといけんので、2021年、本籍地にある先祖のお墓を1基、墓じまいしようと思立ちました。そうは言いつても、単語としては良く耳にするものの、いったいどこから手を付ければよいのかさっぱりわかりません。

ずうっと前、自家用車を売却するとき、「10社の会社にお宅の情報を紹介しますので、そこから見積もりが出ます。その中で一番条件の良い会社と交渉して、より高く買い取ってもらってください」というネットサービスを利用したことがあったので、『墓じまい』にも似たようなものがあるだろうと、探したら、やっぱりあったんです。

墓所在地の市外から2社(A社、B社)、市内から1社(C社)、合計3社から打診がありました。いずれも仏壇屋さんでした。『墓じまい』って、てっきり墓石屋さんがやるのかと思っていたのでビックリしました。

墓の所在地、墓の区画面積、写真、お寺の名前、宗派、私の住所氏名、電話番号を知らせたら、後日、現地調査をされ、見積書が出て来ました。

A社は50万円、B社は45万円、C社は37万円。

見積もりを待っている間に私も行政手続きについて少し勉強したんです。菩提寺から市内に合同墓を持っているお寺(=略して「新規寺」と表記します)に改葬するパターンなんですが、なかなか面倒くさそうなんです。( )の金額は実際のガクです。

① 見積もりをとり、墓じまいをお願いする会社と契約する (330,000円)



② 合同墓をもっている新規寺に受け入れを依頼す。



③ 新規寺に『受入れ証明書』を発行してもらう。

(永代使用料と納骨、法要費用で50,000円/骨壺2体にて)



④ 菩提寺に『埋葬証明書』を発行してもらう。

誓約書(=問題を残さぬように更地にします)を書かされた。



⑤ 菩提寺に『改葬許可証交付申請書』に署名捺印してもらう



⑥ 『改葬許可証交付申請書』に必要事項を記述し、菩提寺が所在する市役所に提出する。埋葬者全員の情報(氏名、住所、本籍、死亡年月日、埋葬場所、埋葬日)、改葬先(=新規寺)の名前・所在地、申請者の氏名・住所



⑦ 市役所から『改葬許可証』が申請者に発行される。



⑧ 菩提寺の住職による「閉眼供養」(=墓石撤去のための法要)を実施する。

(法要のお布施20,000円)



⑨ 骨壺を取り出し、保管する (C社がやってくれた)。



⑩ 撤去工事を実施する(墓石の解体→搬出→整地。本件の場合、3日かかった)。



⑪ 更地に戻す。



⑫ 新規寺に『改葬許可証』を渡す。



⑬ 新規寺の合同墓に納骨する。墓標に戒名を刻印。



⑭ 新規寺による「納骨法要」を実施する。



⑮ 工事完了写真提出をもって、墓じまいを契約した会社に費用を入金する。

C社は同市内なので打ち合わせもしやすく、合同墓を持つお寺の住職と市役所の担当課に顔が効くという。しかも、なによりも3社中一番金額が安い、価格交渉して4万ひいてくれたので、迷うことなくC社に決めたんです。大正解でした。諸々の行政書類の入手、2人の住職の署名捺印、役所への書類提出などすべてC社がやってくれたので、大変助かりました。総額400,000円ですべておわりました。

後日談ですが、菩提寺の敷地内には墓が密集していたため重機が入らず、墓石を一旦砕いて人力で運び出さないといけないので割高になった、それと『ネットの見積もり代行屋』を利用されたので、そこが手数料をぬいているので割高になったんだと教えてくれました。





### 【番外編】

もう一つ別の墓のはなしですが、「母の遺骨は散骨」  
母は、生前より『河野家先祖代々の墓』には入らない。散骨してほしい。」とつねづね私に言っておりました。

それで希望をかなえるため『まごころ粉骨』というところに粉骨を依頼し、パウダー状になったものを散骨しました。大変いい対応をしてくれる会社でした。散骨の詳細内容はいろいろありますので、割愛します。

### 《参考》

まごころ粉骨(043-307-5064、千葉市中央区新千葉 3-17-6-104 FLAT いわいき)に依頼しますと、いろんなものがすぐに宅配で送ってきました。

段ボール箱、緩衝材、遺骨の梱包方法の説明書、ガムテープ、軍手、『こわれもの』表示シール、ゆうパック着払い伝票、粉骨申込書、封筒、ボールペン、油性マジック、収納バッグ、と、こんな物が梱包されていました。

粉骨の料金は、骨壺が8寸(直径24cm)タイプなので12,000円でした。

おわり



## 『我が社の品質保証部とDX』

豊国工業株式会社 河吉利幸 (修 IV H8)

私事ですが昨年10月、私は技術部(水門の設計部署)から品質保証部に異動になりました。これまで20数年、鋼構造物の設計に携わってきましたが、全く新たな気持ちで現在品証業務に勤んでいるところです。そこで、今回この場を借りて我が社の品質保証部(品証部と以下略)と現状の取組みについて簡単に紹介します。

我が社の品証部は全11名で、主に工場製作した水門などの寸法、溶接および塗装の各検査を行い、水門開閉機などの機器は試運転して検査しています。大形水門となると幅や高さが数十mにもなり、その寸法検査では様々な器具や装置を使っています。コンベックスや巻尺であれば素人の私でも使えますが、少し高度なオートレベル(水準測量器)やトータルステーション(距離と角度の測定器)、小物を測るデジタルノギスはまだ使いこなせず勉強中の身です。最近では以下の写真のような円弧型の水門とワイヤロープ式開閉装置を検査して出荷しました。



写真 1.円弧型の寸法検査状況



写真 2.ワイヤロープ式開閉装置全景

昨今、世間ではDXと盛んに言われていますが、この波が当品証部にも来ています。数年前にタブレットを導入し、検査と同時に検査数値を入力していましたが、タブレットが重く扱いにくいからか、中々普及していません。ゆえに現在も多くの検査数値をメモしておき、部屋に戻ってPCのExcel様式に手入力しているのが実状です。今はこんなアナログ時代ではないはず、と思って探したところ、イヤホンマイクを使って音声入力できるアプリ(ソフト)が既にあることが分かり、今、導入に向けて動いています。このアプリは、アプリとの対話形式で数値を入力していくもので、タブレットを持ち歩きながらの入力は必要ありません。業界は違いますが県内他社の成功事例もお聞きし、我が社でも普及させてDXの波に乗っていきたいと思っています。

以上、当社品証部と出遅れ気味のDX事例の紹介でした。皆様の会社などでもDX導入事例がありましたらご教示、情報提供よろしくお願ひします。

以上

## 退任のご挨拶

今川光洋 (機 40)

コロナ騒ぎはようやく落ち着きを見せ、以前に戻りつつありますね。東広島支部役員会も対面で行えるようでご同慶の至りです。

さて、私、80歳を過ぎましたので終活を進めることにしました。そこで役員会の辞任を申し出たところ、会誌に何か書けとのこと、引き受けましたが、永く工学同窓会に関与したにも拘わらず、ネタがありません。つくづく働かなかった支部長、本部理事、支部役員であったと思います。

### 今川の同窓会略歴

- 1965年(s40年)卒業、日本製鋼所広島支部メンバー、会計係
- 1993年(㊦5年)～2000年(㊦12年)日本製鋼所支部長
- 1994年(㊦6年)～2019年(R元年)本部理事
- 2015年(㊦27年)～ 東広島支部メンバー

この間本部は移転、公益法人化など大きな変化がありました。私はその時代に生きたというだけですが、時の会長、専務理事などの皆さんには大変なご苦労があったと思います。そのおかげで今の安定した運営が出来ているのでしょう。

私が東広島支部メンバーになったのは、委任状理事が多いと理事会が成立せぬといわれ、久しぶりに出席した時、河野理事(支部長)に会って、理事会後の会合に参加、活動状況を聞き、リーダーシップに感心してもらいました。枯れ木も山の賑わいくらいにはなりましたかねえ。

数年前日本製鋼所支部休眠の報が入りました。すぐ出向いていきさつ確認しました。若い人達に会費負担と同窓会意義の議論があったようです。残念です。同窓のよしみは個人差があるでしょうが、年取るとわかりますよね。でも、東広島支部には熱心な支部長、支える若い人たちがおられる。同窓会離れは気になりますがこの地区の活動は続くでしょう。繁栄を祈ります。

以上

## 4. 事務局から

### (1) 年会費の納入について

令和5年度の会費は、徴収しないこととなりましたので、お知らせいたします。

### (2) 編集後記

今川様、多年にわたる工学同窓会でのご活動、大変ありがとうございました。今後とも、支障のない範囲でご指導を頂ければ幸いです。

さて、会報37号をお届けいたします。令和2年に始まったコロナ禍が3年を経過して、妙な世の中が日常となり、さらに新たな変化が迫ってきつつあるように感じています。この間、WEB会議やホームワークが浸透する反面、多くの行事や飲み会などの懇親会は自粛となり、廃れつつあるイベントも多いのではないかと思います。

得たもの、失ったものそれぞれありますが、失ったものを取戻したり、新たな変化を受け入れるには、それなりのエネルギーが必要です。どうせ辛苦するのであれば、この際なのでよりよきものを選択したいものです。新しく流れ込んでくるのが、必ずしも良い選択肢ではないかもしれないので、しっかり目を凝らして、必要な時にはNoと言って行動しなければと考えています。また、失われたり廃れつつあるものも、価値をしっかりと評価して、必要なものは存続にこだわりたいところです。

支部活動が停滞して仕事が少なくなったこともあり、事務局は豊国工業㈱が継続担当しております。至らないことも多々ありますが、今後ともよろしくご協力の程お願いいたします。

事務局